

「海と一緒に暮らそう！マリントウン」

中城湾に広がる海と豊かな自然に抱かれたマリントウンでは、暮らしの中で海を感じるウォーターフロントの形成に向けた整備がいま着実に進んでいます。

マリントウンプロジェクトとは？

「中城湾港マリントウン（西原与那原地区）」は、沖縄本島の東海岸南部地域に位置する百四十二haの埋立造成地で、西原町・与那原町の活性化と中南部地域の振興のため、「海辺の快適で豊かなまち」として整備されます。

マリントウンでどんなまち？

マリントウンは、今までの市街地と異なる空間が演出される出島となっており、開放的な緑地・公園・道路（歩道）が特色です。閑静で安らぎのある住宅地とともに、ビーチやマリナーなどの海洋レクリエーション施設も整備されつつあり、生活



「中城湾港マリントウン完成イメージ」

と観光が融合したみんなが「住みたい・行きたい」まちづくりが進んでいます。



那覇都心部

や中北部への移動にも適し、今後予定されている道路インフラの整備により、一層の利便性向上が図られます。また、後背地の山（緑）・東海岸の海（水）に囲まれた自然豊かな土地は、多様な観光ニーズにも対応できる魅力的な地域となることが期待されています。



カエルツボカビ症を防ぐために 琉球列島に住む貴重な両生類を守ろう

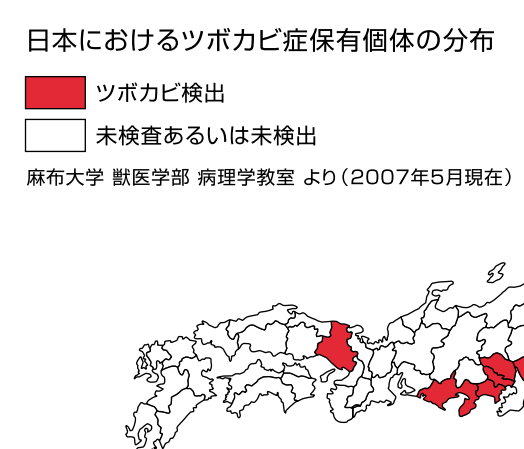
カエルツボカビ症は、カエルなどの両生類の皮膚に寄生する真菌が原因の感染症です。この感染症が沖縄の自然界に広がれば、貴重なイシカワガエルなどの固有種が絶滅する恐れがあります。

ツボカビ感染
日本国内の自然界で見つかる！

今年六月、国内で初めてツボカビ症に感染したカエルが自然界で見つかりました（神奈川県・発症はしていません）。

沖縄でも自然界での感染が疑われるカエルが見つかっています。ツボカビ症の自然界への拡散によって、オーストラリアや中米では、両生類が壊滅的な打撃を受けています。

ツボカビ症は、両生類同士の直接接触、または菌を含む水への接触によって感染します。人や他の動物には感染・発症しませんが、両生類が発症すると食欲不振、うすくまって動かない、口をパクパク



カエルツボカビ症を発症したヘルツノガエル

自然界への拡散がもたらすこと

開ける等の症状が現れます。しかし、外観上判断できない場合が多いので、元氣のないカエルはまずツボカビ症と疑って検査してください。検査費用は一般の飼育者は無料です。



天然記念物のイシカワガエル

ツボカビ症が自然界に拡散すると希少な両生類が失われるだけでなく生態系が崩壊し、害虫の増加、農作物への被害、病気の蔓延などにつながり、我々人間にも実害が及ぶことが懸念されます。

もしあなたが、カエルを飼っていたら

- ① 野外に放してはいけません。
- ② 野外の他のカエルと接触させてはいけません。
- ③ いつもと様子が違ったら動物病院に相談してください。
- ④ もし、死んでしまった場合、焼却ゴミとして処分してください。水を介して感染しますので、絶対に埋めてはいけません。

もしあなたが、これからカエルを飼うなら

- ① 六十日間ほかの生きものと一緒にしないください。
- ② 飼育器具や飼育用の水、カエルを触った手は消毒してください。

ツボカビ症についてのお問い合わせは

（社）沖縄県獣医師会
ツボカビ相談窓口
TEL:098(853)8001

ツボカビ症の詳しい情報は環境省のホームページから

<http://www.env.go.jp/>

県民の皆様へ

平成二十年二月には「住宅祭」を開催し、華やかなシーサイドと公園が隣接し自然を身近に感じながら快適に暮らせる住宅用地の分譲を始めます。今後ホテル用地や商業用地の分譲も行う予定です。

ドライブの途中で気軽に立ち寄って、ビーチや広場を利用したウォーターキングや多目的広場でのスポーツなど、潮風を感じながら美しい自然を満喫してください。

